

浜口隆則著「社長の仕事―成功と継続―自らに問うべきこと、押さえるべきこと」

かんき出版 2011年9月1日刊を読む

成功と継続―自らに問うべきこと、押さえるべきこと―

1. 「『社長の仕事』の質が会社の成否を決めている」

(1) 何千人という社長と接してきて、何千社という経営の盛衰を見てきて、思い知らされたことだ。

(2) この事実は、多くの成功者が語ってきたことでもあるし、職位に関係なく、会社に属する多くの者が理解できると思う。また、日々、社会からの厳しいフィードバックを容赦なく受けている実践の経営者ならば、なおさら、強く実感しているはずだ。

2. しかし、実は、そこに大きな落とし穴がある。

(1) なぜかと言うと「社長の仕事が会社の成否を決めている」のは、長期的には真実だが、短期的には真実ではないからだ。

(2) 経営は不思議なもので、短期的に見ると、社長の実力に関係なく成功していることが多い。経営の成功を支える要因が、たまたま揃っていたり、時流やブームに乗ったり、一部の突出した能力が強くて全体の成功を支えていたりすると、成功する。いや、成功してしまう。

3. つまり「たいていの成功は、偶然である」ということだ。

(1) しかし、それにもかかわらず、多くの社長は「偶然の成功」で満足してしまう。成功の一部が偶然によってもたらされているとは夢にも思わず、すべてを自らの力で成し遂げた成果なのだと信じてしまう。

(2) だから、社長としての実力を高めることをやめてしまう。そういった努力から逃げるようになり、人の話を聞かなくなり、独善的になる。そして、失敗してしまう。

(3) 環境は常に変わる。それによって自社を成功に導いていた要素も常に変化している。当然、偶然によってもたらされていた要素も変化する。その時、実力のない経営者は、それを再構築することができない。

(4) いや、そもそも「何が変化したのか?」「何が必要なのか?」が分かっていない。偶然の成功に酔い、社長としての実力を高める努力をせず、経営に必要な「要素と構造」が分かっていないのだから、当然のことだ。

4. 分かるのは、うまくいっていないという事実だけだ。

(1) 多くの社長が「社長であり続けることができない」という、厳しい現実の大きな原因の一つが、この点にある。

(2)「社長の仕事」は、会社を一時的な成功へ導くことではない。会社を「永続させる」ために必要な「すべて」のことをすることだ。それは簡単ではない。

(3)「成功するのは簡単だが、成功し続けることは難しい」のだ。

5. 本書は、その難しさと正面から向き合う、覚悟のある社長のために書いた。

(1)一時的な成功ではなく、継続的な成功を目指そうとする社長。一時的な成功に酔うことなく、過信せず、実力を高めようとする社長。そういった社長のために書いた。

(2)数千人の社長が目の前で見せてくれた現実、成功と失敗から生まれた言葉は、厳しかった。

(3)だから、厳しいと感じる表現があるかもしれない。

(4)優しい言葉も大切だと思う。しかし、優しい言葉だけが、人を支えられるとは思わない。

(5)とても苦いかもしれないが、ぜひ受け取って頂き、明日からの経営に生かして欲しい。

6.『社長の仕事』は「読んで終わり」ではない。

(1)「知っているか知らないか」ではなく「出来ているか出来ていないか」を、自らに問うのが「成功と継続」をもたらす社長の基準である。

(2)そういった基準で取り組んでいてもらいたい。忙しい社長業のことを考えて、毎朝 1 分で読めるように、一つ一つは簡潔に短い言葉でまとめた。ざっと読んだ後は、一日一つずつじっくり考えながら読んで、「社長の仕事」をチェックできるように工夫した。

(3)読むのに 1 分、自分をふり返るのに 5 分、使って欲しい。それだけでも「社長の仕事」の質を飛躍的に高めることができる。

(4)自分を見つめること、自分に向き合うことは、厳しく辛いことでもある。しかし、それこそが「社長の仕事」の大切な第一歩なのだ。

(5)さあ、「社長の仕事」を始めよう。

[コメント]

「戦わない経営」の著者浜口さんの経営についての本は、いつも新鮮ではあるが基本的なことが示されていてありがたい。経営とは営みを経て目的や目標を達成することと考えれば、本書は社長だけではなく、すべてのマネジャーやマネジメントを目指す人々への教科書と言える。何回も何回も一行一行が自分のものになるまで読むべき本だ。

— 2011 年 8 月 31 日 林 明夫記 —